（独）地域医療機能推進機構船橋中央病院地域協議会議事録

日　時　　　　平成３０年７月１９日（木）
　　　　　　　１６：００～１７：２０
場　所　　　　第１会議室
出席者　　　　（外部委員）
　　　　　　　・野々下　次郎・中村　順哉・丸山　尚嗣・倉部　佐和子
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（敬称略）
　　　　　　　（病院委員）
　　　　　　　・横須賀　收・高橋　喜久雄　・深澤　元晴　・大塚　恭寛
　　　　　　　・赤石　仁　・小関　由美子（代理出席）　　（敬称略）
　　　　　　　（事務局）
　　　　　　　・吉田　茂生　・川合　唯一　　　　　　　（敬称略）

１　開会　　　　深澤副院長

２　院長挨拶

３　平成２９年度事業報告

別添資料により、平成２９年度事業報告について赤石事務部長より説明

（丸山委員）　自治体病院などの９割が赤字という状況で、黒字経営となっていることはすばらしい。

　ベースアップなどにより給与費が上がっていくなか、人件費は抑えられているが、その分委託費が上がっている。今後、消費税率が上がることによる影響も心配である。

　周産期は県内の約半数を受入れていただき助かっている。今後も引き続きお願いをしたい。地域の医療を担っていくうえで、周産期センターは絶対に必要である。また、紹介率を上げることは相手もあることでなかなか難しいかもしれないが、逆紹介率を上げていくことで、地域の医療機関と連携が取れ、結果として紹介率も上がっていくという流れを作ることが重要であると考えている。

１．訪問看護ステーション開設について

別添資料により小関副看護部長より説明

（中村委員）　当院の患者さんもお世話になっている。

　医師会としても年２回､訪問看護ステーションと在宅の医師との顔合わせを行う会を実施している。１１月にも実施を予定しているので、その際はこちらにもお声掛けさせていただく。

（丸山委員）　利用者のうち自院の患者さんが６割、他院の患者さんが４割という説明

があったが、その４割の中に医療センターの患者さんも含まれている。
地域全体で、患者さんにとって一番良い連携ができればと考えているので、今後ともよろしくお願いしたい。

２．救急患者・紹介患者の受入れ状況について
別紙資料により大塚副院長、赤石事務部長より説明

（横須賀委員）　当院としては極力お断りしないという体制で行っている。地域の住民の方々の中には、船橋中央病院では救急を受入れていないのではと思っている方もいらっしゃるようであるが、そのようなことはないので、ぜひお越しいただきたい。

（横須賀委員）　逆紹介率については、当院でも積極的行うよう指導しているところではあるが、まだ、伸びが十分ではない部分もある。今後も続けて指導していこうと考えている。

３．今後、当院へ望むこと

（倉部委員）　最近、自分自身も病気をすることが多くなり、こちらの病院にもお世話になっている。最近では市立医療センターにも入院した。看護師の対応はどちらも総じて親切であったが、事務処理や電話、窓口対応は医療センターの方がスムースだと感じた。
また、千葉県は１０万人に対する医師の数が１５０名で、全国平均からすると低い方だという記事を拝見したが、船橋市は非常に医療が充実していてありがたいと感じている。
しかしながら、私が役員を務めている船橋市商工会議所会員の健診は、現在、行徳の医療機関で実施していると聞いている。船橋市市民は大きな病気になると医療センターや中央病院にお世話になる。そういう意味でも、中央病院で健診ができるようご検討いただきたい。

（横須賀院長）　ご意見に基づき対応していく。医師の偏在等は社会的な問題でもあるが、できる限り努力していく。

（高橋委員）　当院の窓口等における対応について、スムースではないということなのか、温かみがないとお感じになったのか。

（倉部委員）　職員数の問題などもあるのかもしれないが、院内の連携の問題ではないかと感じた。

（野々下委員）　初めて参加したが、経営などの面でもしっかりされていると感じた。
２次救急などの話も出たが、船橋市としては「地域包括ケア」のシステム構築を、市長の公約のもと進めているので、今後もご協力をお願いしたい。

以上　　17：20 閉会